

お金がない人を助けるには？

大阪大学社会経済研究所 大竹文雄

1. 経済学者への質問

私の職業が経済学者であることを知った初対面の人は、たいてい「景気はこれからどうなるでしょうか？」とか「どの株が儲かるでしょうか？」ということを聞いてくる。経済学者とは、お金の儲け方とか、景気予測を研究している人だというのが世間の評価のようだ。もちろん、「景気がどうして変動するか」とか「株価はどうやって決まっているか」というのは経済学の大きなテーマである。しかし、景気予測や株価の予測とはかなり違う。世間の大人が経済学者に抱くイメージと経済学者が実際にしている仕事のギャップを説明するのはなかなか大変である。

近所の小学5年生が「総合学習で経済学者にインタビューをしたい」、という申し出をしてきたとき、お金儲けの方法を質問されると困るな、というのが最初の印象だった。質問の大まかな内容を聞くと、「助ける」をテーマにして様々な人にインタビューをして、発表するのだという。「病気の人を助ける」ということで医者にインタビューをしたり、「介護の必要な人を助ける」ということで介護ヘルパーにインタビューをしたり、「病気の動物を助ける」ということで動物病院の獣医にインタビューをしているとのことであった。「お金がない人を助ける」ということで経済学者にインタビューするという。これなら答えられそうだと、ということでインタビューを引き受けた。

子供の質問は素朴なもので大人には簡単に答えられるものもあれば、本質を突いていて簡単には答えられないものも多い。実際、私の回答の中には、結構高度な経済学の考え方を使って答えなければならないものもあった。抽象度が少しでも高まるとあくびをし出す小学生のグループを前に、悪戦苦闘して答えたインタビューの様子を紹介しよう。

2. 小学5年生の質問

Q1. お金がない人を助けるときどうやって助けるのですか？

A1. お金がなくて困っている人はたくさんいますね。ホームレスと言われる家がなくて公園でテントで生活している人たちも増えてきています。とても生活に困っている人がいたら助けてあげてくださいね。お金がなくて困っている人が、家族や友達なら親戚みんなで助けたり、友達みんなで助けたりすることが多いと思います。では、みなさんが直接知らないけれども、お金がなくて困っている人はどうやって助けられればいいのでしょうか。みんな

なおお金を出して困った人を助ける役割をしているのが「政府」や「NPO」と呼ばれる組織です。

政府がお金がない人を助ける方法には、直接お金をあげて助ける「社会保障」とお金を稼ぐことを助けるために「仕事を紹介」したり仕事に就けるように「訓練」したりする方法があります。そのためのお金は主に税金でまかなわれています。社会保障には、生活保護と社会保険（年金や失業保険）があります。生活保護は、貯金が少ないこと、所得が少ないことを条件にして、貧しい人にお金を政府が支払う制度です。そのお金は、日本に住んでいる人々が支払っている税金がもとになっています。お金を稼いでいるひとは、所得税という税金を支払っています。小学生でも買い物をしたときに消費税という税金を払っています。消費税は買い物の金額の5%を支払うものです。

（社会保険・税金）

社会保険は、あらかじめ保険料を支払っておいた人が、仕事がなくなったり、65歳をすぎたりした時にお金をもらう制度です。会社がつぶれたり、仕事を辞めさせられたりしたときにももらう社会保険が失業保険です（正確には雇用保険の失業給付）。65歳以上になって仕事をやめた時にももらう保険が公的年金です。

税金そのものにも貧しい人を助ける意味があります。たくさんのお金を稼ぐ人の方が、少ないお金しか稼がない人よりも、高い税率で税金を払います。税を払うのは国民の義務ですが、豊かな人の方がより重い負担をしているのです。

（職業紹介・教育・訓練）

直接お金を渡して助ける方法の他にも貧しい人を助ける方法もあります。仕事が見つからなくてお金がない人には、仕事を紹介してあげたり、仕事につくことができるように教育や訓練をしてあげることです。無料で職業紹介をしているのがハローワークというところです。この方法の方が、単にお金を渡してあげるよりも、貧しい人が自分で豊かになれる方法を教えてあげるという意味で優れています。

（NPO・NGO）

政府の他にも貧しい人を助ける組織もあります。さまざまな人の寄付やボランティアをもとにして貧しい人を助ける組織があります。NPO（非営利組織）という団体やNGO（非政府組織）という団体の中にはそういう活動を行っているものがあります。駅で募金活動をしている人をみたことがあると思います。そうやって集めた募金や寄付金をもとに貧しい人を助ける活動をしているのです。赤十字もNPOの一つです。

（お金がない人を助けることの難しさ）

「お金がない人をもっと助ければいいのに」、とみなさんは思うかもしれません。ところが、誰が本当に貧しいのかを調べることはとても難しいのです。家族や友達なら簡単ですよ。でも、よく知らない人だとどうでしょうか。たとえば、「100万円より少ないお金しか稼ぐことができない人には、90万円あげましょう」、という制度を作ったとします。一生懸命働いて110万円稼いでいた人は、なにもしないで90万円もらうのとどっちがいいのか考えてしまうのではないのでしょうか。「たくさんのお金を貧しい人にあげることにします」、と決めたとすれば、みんなが働くのをやめてしまうかもしれません。でも、あまりにも少ない金額しかあげないと、貧しい人のくらしはとてもひどくなって、人間らしい生き方ができなくなってしまいます。子供たちも学校にいけなくなってしまふかもしれません。「どのくらいの金額を貧しい人にあげればいいのか」「本当に貧しい人をどうやって見つけるのか」という問題は、なかなか難しい問題なのです。

Q2 お金もちと貧しい人がどうしているんですか？

A2 世の中には、生まれつきお金もちで家や資産もたくさんある人もいれば、貧しい家に生まれた人もいます。貧しい家に生まれた人でも、勉強ができたりスポーツができたり、商売が上手だったり、といった才能に恵まれた場合は、お金持ちになれるかもしれません。お金持ちの家に生まれても、無駄遣いばかりして仕事をしていないと貧しくなってしまうかもしれません。

（運と努力）

一生懸命仕事をしていても、会社が倒産してしまって、仕事がなくなって貧しくなることもあります。病気になって仕事ができなくなってしまうこともあります。お金を盗まれてしまうこともあるかもしれません。火事や地震でお金がなくなってしまうかもしれません。逆に、宝くじをかって一等があたってお金持ちになる人もあるかもしれません。

才能に恵まれて生まれるのか、病気になってしまうのか、会社が倒産してしまうのか、お金を盗まれてしまうのか、宝くじにあたるのか、といった運に左右される面はあります。一方で、まじめに働いたり、勉強を続ければお金持ちになれるのに、さぼってばかりいて貧しい人もいます。

みなさんは、アフリカやアジアの貧しい国の人々よりも豊かな生活ができるという意味で運がよかったかもしれません。でも、しっかり勉強して技術や知識を身につける努力をしないと日本が貧しい国になってしまうかもしれません。努力して知識や技術を身につけることができるかどうかもお金持ちと貧しい人の差の原因の一つです。

(運と努力の区別は難しい)

まとめると、お金持ちになるか、貧しい人になるかは、運がよかったのかどうか、ということと、努力を続けてきたかどうか、という二つのことで決まってきます。ところが、自分以外の人にはもちろん自分自身でも、運が悪かったのが貧しくなったのか、さぼってばかりいたから貧しくなったのかを区別することはとても難しいのです。貧しい人がみんな運が悪かったから貧しくなったのであれば、みんなで助けてあげるべきでしょう。貧しい人がみんなさぼっていたから貧しくなったのであれば、さぼらないような仕組みを作っていくべきでしょう。貧しい人の中には、運が悪かった人とさぼったから貧しくなった人の両方がいるのです。お金持ちも同じで、運がよかった人と努力を続けた人の両方があります。運がよかったとしても努力を続けることが必要です。

(本当に困っている人を見つけ出す方法)

本当に運が悪くて困っている人だけをうまく見つけ出す方法はあるのでしょうか。特別な場合には、困っている人だけを見つけ出す方法があります。たとえば、学校で体育は嫌いだけれども、休み時間に校庭で走り回ることが大好きな小学生がいて、「お腹が痛い」という嘘を先生について体育を休もうとしたとします。この時には、先生がこの子供が嘘をついているかどうか確かめるいい方法があります。それは、「お腹が痛い人は体育を休んでいいけれども、休み時間に校庭で遊ぶことはできません」と子供に言うことです。本当にお腹が痛い子供だったら、校庭で遊べるはずがありません。貧しい人を助ける時にも、このような方法がうまく使えればいいのですが、実際には難しいですね。

Q3. なぜ同じ時間でもやることによって給料がちがうのですか？

A3. この質問には、二つの意味があります。一つは、人によって一時間働いてもたくさん給料をもらえる人と、少ししか給料をもらえない人がいることについての疑問です。もう一つは、同じ人でも、違う仕事をしたら、給料が違ってくることについての疑問です。

仕事というのは、なにか物を作ったり、人にサービスをしてあげたりすることです。物を作った場合には、その物の価値から材料費を引いたものが給料になります。人にサービスをしてあげた場合には、そのサービスの価値が給料です。

(同じ仕事をしていても人によって給料が違うのはどうしてか)

料理の値段を考えてみましょう。とてもおいしい料理を作るのが得意な人とまずい料理しか作れない人がいたとします。同じ材料を使って、同じ時間で作られた料理であっても、おいしい料理には高いお金を支払って食べたいと思う人が多いでしょう。しかし、まずい料理にはお金を支払いたくない人はいないでしょう。高いお金を支払っても食べたいと多くの

人に思わせるような料理を作った人は、高い給料をもらえますが、まずい料理しか作れなかった人の給料はとても低くなります。

(同じ人でも違う仕事をすれば給料が違うのはなぜか)

同じ仕事をしていても人によって給料が違うのは、これでわかったと思います。でも、料理が上手ではなくてもがっかりしないで下さい。世の中には、さまざまな仕事があります。皆さんもこれは得意だけれども、これは苦手だということがあると思います。勉強は得意だけれども、走るのは苦手とか、歌はうまいけれどもダンスは苦手とか。同じ人でも、得意なもの苦手なものがありますから、その人の一番得意なものをみつけて仕事をすれば、その人にとっては一番給料が高くなります。自分に向いた仕事を見つけることが大事です。

運悪く、今の時代で一番給料が高い仕事とみなさんが得意な仕事が違ってたとすれば、あまり高い給料がもらえないかもしれません。野球がとてもうまくてプロ野球の選手で高い給料をもらえる人も、プロ野球という職業が存在しない時代に生まれてた高い給料はもらえませんよね。パソコンのプログラムを書くのがとても上手な人も、パソコンがない時に生まれてた、お金持ちになれなかったかもしれません。世界で一番のお金持ちは、ビル・ゲイツというパソコンのプログラムを作って売っている人ですが、パソコンがなかった100年前に生まれていたら、あんなにお金持ちになれなかったと思います。

やっぱり、運というのでも高い給料がもらえるかどうかを決める要素の一つなのです。でも、運に恵まれたとしても、努力しないと知識や技術を身につけることはできません。運がよくて野球の才能があったとしても、練習しないとプロ野球選手にはなれませんよね。努力して得意なことをのばしていくことは、もっと大事なのです。